

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
発行人 山崎 哲  
編集長 仲井 真裕  
印 刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621

え  
令和5年  
7月号  
NO.  
546 しお  
7

大悲に生きる人とあう  
願いに生きる人となる



本山佛光寺慶讚法会 団体参拝旅行については5ページ

## 西徳寺の予定

### 7月

1日(土) 午後5時半 同行会『勸衆偈』に聞く  
法話: 山崎住職

9日(日) 燈虹塾散策

13日(木)~16日(日) 孟蘭盆会  
(10日よりお盆体制となり、新盆を中心にお参りに伺います。)

19日(水) 午後6時 千束幼稚園花火

22日(土) 午後2時 定例聞法会

23日(日) 午後2時半 中央ブロック会聞法会 場所: 西徳寺

26日(水) 午後1時半 婦人会聞法会

### 8月

13日(日)~16日(水) 孟蘭盆会

※予定は変更することがあります。

詳しくは寺務所までお問合せください。



## 顧問の一言

### しっぺ返し

座禅を組む修行僧の背筋が曲がっていたり、ウトウトすると、後ろから見回る師匠が肩を棒で叩く。その叩く棒は竹でできた鞭、竹箒と呼ばれる。交代で竹箒を打つ役を務めることがあり、打たれた者も打ち返す立場になることから、やられたことを即座にやり返すことを竹箒返し、しっぺ返しというようになったようだ。

日頃の生活の中で、反射的に出るこの自己防衛は、するもされるもお互い様。私たちの痛ましい煩惱を表しています。



えこおファイル在庫あります。

# 7月の山門の言葉



# 「結果が全て」 それが地獄

幼い頃「偉人伝」をよく読んだ。凄いなあと思う反面、結果からの逆算ではないかとどこかで感じていた。結

本を開けばまずは作者紹介から。肩書きという結果がどうしても気になる。これは読むに値するか振るいに掛けている表れか。

その人が何を成したかが判断の中心になる。そして褒め称えたり非難したり・・・

残酷極まりないといつも思う。結果次第でその人が歩んできた道のりが才セロのように黒くなったり白くなったり。

大切なのは、その人が何を願い、何を成そうとしているのかではないか。それは言葉のみならず、日頃の行動や在り方からにじみ出てくるものだと思う。じつくりとお付き合いする中で伝わってくるのではなかろうか。SNSが普及する昨今、希薄になりつつある。得てして人間はこの結果に飲み込まれやすい。結果を判断基準の全てにし、知らぬ間に人を切り刻む。時には自分自身を自分自身で「つまらない人間」と決めつけたりもする。

どの仏様にも必ず「願い」がある。阿弥陀仏になる前の法藏菩薩には四十八願がある。その願いが成就して仏様に成られるのである。

人間も同じではないか。その人が何を願いながら日々を歩んでいるのか、そこを見つめれば、自ずと信頼が生まれたり関係が深まっていくものだと思う。

(山崎哲記)

## 西徳寺本堂の歩みと現状

先般の台風2号の影響による長雨で、雨漏りが発生。内陣に落ちてきたため職員で屋根裏に入り作業しました。雑巾に染みこませながら拭き取り、今回はバケツ12杯にもなりました。数年前に屋根裏防水加工の応急処置を施してますが、鉄骨を伝って落ちてくる雨水の経路は範囲が広くなかなか難しいところです。

話は変わりますが、5年後に西徳寺開基400年、7年後に本堂建立100年となります。それに際して法要を勤修する計画が進行中です。隨時皆様にご案内させていただきますので何卒よろしくお願ひ致します。

住職 山崎 哲



# うばだいしゃ～共悩共歩～

## テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしゃ)論議の意。  
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。  
(例:淨土論=無量寿經優婆提舍願生偈)

### 「時代を感じたい」

大谷 隆<sup>りょう</sup>

「聞法会にどういった姿勢で臨めば良いのか、分からぬ」。これが西徳寺に来て、一年経つた今の感想です。今まで、あまり馴染みのなかつた聞法会という行事。西徳寺では、毎月行われておりますが、右も左も分からぬ私が身を置かせていただきておる中に、感じることが日々あります。

以前は、いつか分かるように、いつか話が出来るようになると、意欲を持ち、聞法会に出ておりました。ですが会を重ねるごとに、これはもしかしたら百年経つても分からぬんじゃないかと思うようになつています。もちろん私の勉強不足ということはあるのですが…。

以降、何か違う視点で聞法会というものを捉えるようになりました。といいますのも、日々先輩方や聞法会でご縁をいただいた方々に、昔はもつと詰問される厳格な雰囲気だつた、入寺してすぐ法話をしないといけなかつたんだと、教えられます。

それを受け、昔の聞法会の時代をもつと知りたいと思うようになりました。どんな意欲を持つて聞いていたのか、どんな雰囲気だつたのか。

今私のには、何か知識よりも、そういう時代を感じて、何を考えるのかを求めている気がします。そして私も堂々と、今生きている時代を知つてもらうために、発信していくたいと考えています。

ただ、そうはいっても結局勉強しないと、分かろうとして聞かない、知識が頭に入つてこないこともあるわけです。日々迷い、考えながら、私なりに一生懸命生きております。



### 「表面の時代」

深澤 見弥<sup>けんや</sup>

私は昨年度まで東京の美術大学に在籍しておりまして、主に絵画の制作を行つてきました。絵で食べていく道は拓けなかつたわけですが、専業作家というものは絵画を志す人の共通の目標です。

しかし、絵を売るのが難しい時代だと私は思います。アーログの絵画のブームはデジタルで描く作家が増え始め、下火です。最近ではA-I 絵画の成長も目立ちます。物質が疎かにされ、視覚情報のみが享受されている現状です。完成までの過程が最適化され、厚みの無い表現が蔓延するでしょう。「コスパが良い！」なんて言葉も耳にしますが、芸術・表現は「コストダウン」の方向に向かつている気がします。

これは表現の分野に限定した問題ではありません。労働者の告発が議論を呼んだ某アパレルブランドは、簡素な織維で高級ブランドを再現し、格安で販売しています。数回着用し、流行りが廃れたら捨てる、といった形で需要があります。私自身も購入した感想としては、その値段に驚きつつ、数回の洗濯で痛む繊維の脆さに淋しさを感じました。

これらの事柄に対し「結果は同じでも、蓄積が無い」と感じます。蓄積よりも上つ面が評価される「表面の時代」が到来しています。

### 久しぶりに

入寺した20代の二人。西徳寺にとつてもその若さは大切です。そこで彼らを中心「仏教青年会」を新たに開こうと考えています。

聞法を軸に、いろいろなレクレーションが出来ればと思っております。改めてご案内させて頂きますが、興味があるかた、是非ご参加下さい。

住職 山崎 哲



左より、深澤見弥・大谷隆

## 城西ブロック会総会・聞法会 5月21日(日)

この度は西徳寺を会場に「令和5年度総会・聞法会」を開催しました。総会に於きましては、昨年度の活動と新年度の予定を報告し今後の活動が円滑に進むようご審議頂きました。

聞法会では、御誕生850年を迎えた親鸞聖人の『正信偈』について、担当大橋と大谷顧問よりお話を致しました。

聞法会後は懇親会を行い、久しぶりにお会いした方々と楽しい時間を過ごせました。「聞法会が気になる」という方は、大橋までお気軽にお問い合わせください。

**次回は10月1日(日)**に、聞法会を予定しております。

(担当 大橋 伊知郎 記)



懇親会



大橋

## 城北ブロック会総会・聞法会

6月11日(日)、池袋の西口、くいもの屋わんにて総会・聞法会を開催いたしました。初参加の方を含めて17名の会員にご参加いただき、総会の議事を承認いただきました。

聞法会のテーマは生老病死。大谷顧問からは「いのちは自分のものではない。いのちは受け止めるもの。始まりも終わりもいただくのが、いのちなのだ」と教えていただきました。

久しぶりの“出かけていく”聞法会が開催できたよろこびからか、懇親会はいつも以上に大盛り上がりでした。

**次回は11月19日(日)**、荒川区日暮里での開催を予定しております。

初めての方でも楽しめる和やかな会です。ぜひ皆様、ご参加ください。

(担当 仲井 真裕 記)



## 城東ブロック会主催 散策「親鸞聖人を訪ねる」会 報告

6月1日に城東ブロック会主催の散策を行いました。

親鸞聖人が関東滞在の折りには、精力的に各地を歩かれたようです。

現在の東京都葛飾区の辺りは、当時鎌倉御家人である葛西三郎清重が統治していました。葛西氏は親鸞聖人に度々出遇い、遂に弟子になったと伝わっています。その葛西清重ゆかりのお寺の一つが、今回訪れた浄土宗・光増寺様であります。

徒歩約2kmほどの行程のうち光増寺様に到着。そこではご住職のはからいで、大変貴重な史料を特別に見せていただき、参加者一同充実した時間を過ごしました。また今後も企画したく思います。

(担当 高橋 淳 記)



江戸川沿いを歩きました



光増寺(金町)

皆様の代わりに、お花・お線香等、お墓にお供えできます。

本山佛光寺「慶讚法会」団体参拝旅行 5月27日(土)、28日(日)

「佛光寺第33代真覚門主伝統奉告法要」、「親鸞聖人御誕生850年法要」、「立教開宗800年法要」、「聖徳太子1400回忌法要」にあたり、本山佛光寺では「慶讚法会」が厳修され、西徳寺からは38名でお参り致しました。50年に1度の法要でもあり、大師堂が満堂になるほど多くの方がお参りされていました。

また、法隆寺では西徳寺と深い関わりを示す資料も特別に展示いただき、大変貴重な機会となりました。その後は聖徳太子のお墓がある叡福寺にもお参りし、その後帰路につきました。あつという間の2日間でしたが、皆様とお参り出来たことは本当に嬉しく思います。

団体参拝旅行にご参加いただいた方々には、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

(大橋 伊知郎 記)



本山佛光寺·大師堂



六角堂·本堂



叡福寺・聖德太子御廟



法隆寺・五重塔



法隆寺特別展示



法隆寺特別展示「西徳寺」と記載あり



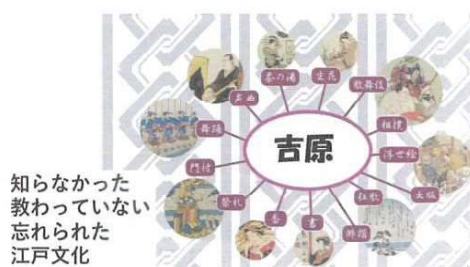
集合写真

燈虹塾セミナー 報告

6月14日に燈虹塾セミナーを開催いたしました。

これまでの当セミナーでは、吉原の遊女たちが高い教養を身につけていたことをお伝えしてきましたが、では具体的に遊女がどのように一日を過ごしてきたのかを、当塾副代表の不破利郎より教えていただきました。私個人として面白かったのが食事についてです。浮世絵を参考に、ホタテや魚を食べていたこと、白米と漬物を食べていたことなど興味深く拝見させていただきました。(事務局 高橋記)

(事務局 高橋 記)



「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。

## お盆案内

今月13日から(木)16日(日)は盂蘭盆会(お盆)を迎えます。  
先立たれた方々に手を合わせることを縁として、自らの歩む道に思いを馳せるお盆。そのひと時を大切に迎えてこられたのがお盆です。  
特別なお莊嚴は要りません。皆様と共に手を合わせたいと思います。  
ご自宅や墓前、本堂での読経をご希望の方はお寺までお問い合わせください。  
なお、お盆期間、特に週末は境内が混み合いますので、お参りは公共交通機関をご利用ください。



## えこお志お礼

三重県 長徳寺 様

埼玉県 柳澤 幸雄 様

台東区 高木 光二 様



ご淨財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせて頂きます。

## 内愚外賢

～賢者の信を聞きて、  
愚禿が心を顕す～

先月、本山佛光寺で勤まった慶讃法会。<sup>きょうさんほうえ</sup>5月12日～14日、19日～21日、26日～28日と、3週連続で勤められました。その全ての期間、西徳寺職員の大谷隆君と深澤見弥君が、境内や堂内の誘導等をするボランティアスタッフとして働いてくれました。

雨も多く、暑い日が続く中、働いてくれた2人に感謝するとともに、多くの人々が集い、法要が勤まつたことをうれしく思います。

親鸞聖人が『教行信証』を著されて800年。立教開宗といわれますが、親鸞聖人は愚禿親鸞“集”とされています。親鸞聖人は教祖ではありません。浄土真宗は、私たち1人ひとりが教えに向き合う道であると教えられました。



本山の大谷隆・深澤見弥

(編集長 仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)  
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座  
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook